

# ごあいさつ

皆さまには、平素より足利小山信用金庫に格別のご高配とお引き立てを賜り、心より厚く御礼申し上げます。

当金庫へのご理解をより深めていただくために、本年も本誌「足利小山信用金庫の現況2011」を発行いたしました。ご一読いただければ幸甚でございます。

去る3月11日に発生しました東北地方太平洋沖地震による東日本大震災は、東北地方を中心に関東地方など広い範囲にわたり未曾有の甚大な被害を引き起こしました。被災された皆さまに心からお見舞いを申し上げますとともに、一日も早く復旧されますよう心からお祈り申し上げます。

足利小山信用金庫は中期経営計画の2年目として、①金融円滑化機能の発揮、②地区別業務運営体制の構築による顧客基盤の拡充・強化、③資金運用力の強化による業務純益の安定確保、④リスク管理態勢の機能強化、⑤信頼を高める社会貢献活動等の展開を経営課題として掲げ、期初より意欲的に取り組んで参りました。

具体的な施策として、昨年6月に内部管理体制の更なる強化と意思決定プロセスの効率化を図るため本部組織の一部改定を行い、7月には予て試行しておりました地区別業務運営体制(エリア制)を本格的にスタートいたしました。また、お客さまのニーズにお応えするため、預金商品では退職金専用定期「ゆとり定期預金」に投資信託コースを追加、融資商品では「カーライフプラン・エコ」、保険商品では終身保険「MS終身α」、「WAYS」の取り扱いを開始し、さらに、遺言信託等の相続関連業務の取り扱いを開始、視覚障がい者に配慮した対応として全店舗のATMにハンドセットを装着いたしました。

なお、東日本大震災への対応につきましては、「震災緊急相談窓口」の設置、「災害復旧ローン」の取り扱い開始、預金の代払い等適切な対応に努めております。

今後の経営環境を展望いたしますと、地域経済が依然として疲弊している中、東日本大震災による経済への影響も未だ不透明な状況にあります。このような環境下において、当金庫は協同組織金融機関の基本的性格やその背景にある相互扶助の理念を十分に踏まえ、地域社会の繁栄に貢献していくことが最も重要な課題であると認識しております。

当金庫はこのような状況に的確に対処するため、信用金庫のモットーであるフェイス・トゥ・フェイスの精神で適切かつ積極的な金融仲介機能を発揮して行く所存でございます。

平成23年6月28日付で、平成17年10月から理事長を務めておりました篠田洋行が会長に就任し、私富田隆が理事長に就任いたしました。

今後とも一層のご支援、ご鞭撻を賜りますよう心からお願い申し上げます。



平成23年7月

理事長 富田 隆